



国際的アートシーンを牽引するサラ・モリス

日本初の大規模個展を開催

サラ・モリス 取引権限

会場：大阪中之島美術館 5階展示室

会期：2026年1月31日（土） - 4月5日（日）



Sarah Morris in front of her painting "Courtship [Spiderweb]", 2021. Household gloss paint on canvas, 271 × 214 cm
Photo: Anna Gaskell

大阪中之島美術館は、日本初となるサラ・モリス（1967年生まれ）の大規模個展「サラ・モリス 取引権限」を開催します。モリスは、ネットワーク、グローバリゼーション、建築、組織や制度、都市への関心を反映した作品を多数制作しています。現実と鮮やかな抽象を織り交ぜ、街と権力を示す新しい表現を作り出すモリスは、同年代のアーティストの中でもひととき注目を集めています。

本展では、モリスの30年以上にわたるキャリアの中で生み出された作品を100点近く展示します。展示作品には、絵画はもちろん、映像作品全17点やドローイング、本展のため制作される大型の壁画が含まれます。映像作品《サクラ》は2018年、桜の開花直前に、関西などで撮影されました。

国際的に活躍するモリスは、大阪中之島美術館と関わりが深いアーティストです。当館は、モリスの作品を日本で初めてコレクションに加えた美術館であり、所蔵作品にはモリスの大型絵画や映像作品があります。



みどころ

1. 国際的アートシーンを牽引するサラ・モリス、日本初の大規模個展
2. 出展作品の約90%が日本初公開
3. 新作壁画、関西ゆかりの映像作品を展示

展覧会の概要

主要作品の絵画約40点、映像作品17点を展示

本展では、モリスの初期の作品から最近の作品まで約40点の重要な絵画を展示し、絵画と並行して制作された映像作品も、新作含めてすべて上映します。モリスの創作活動を時系列で総覧する本展では、変わり続ける世界の大都市に対するモリスの関心がうかがえます。都市において複雑に絡み合う文化・政治・経済構造が、美しさや緊張感、不安定さとともに、絵画と映像に表れています。

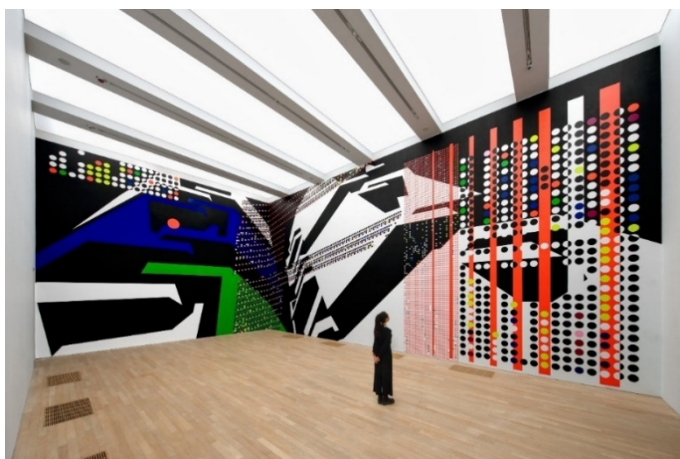
展示室に描かれる新作壁画、関西ゆかりの映像作品を展示

本展のために展示室の壁に描かれる新作の大型壁画にくわえ、2018年に関西などで撮影して作られた映像作品《サクラ》など日本にまつわる作品も展示します。

都市の文化やそこに通底するものを捉えつつ、モリスの映像は様々な個人や場所を映し出します。その対象は幅広く、絵の具やパステルで有名なクレパス®工場や、ユネスコ無形文化遺産である文案、レンゾ・ピアノが設計した関西国際空港旅客ターミナルビル、剣道、サントリー山崎蒸溜所、ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥教授の研究所などが含まれています。モリスは大阪を、東京と対をなす都市あるいは「第二の首都」として捉え、絶えず変化し続けるその様を、日本の経済と文化の系譜を映す鏡として提示しています。モリスは都市空間を切り出すことで、過去の亡霊と未来の構想が現れ、掬い上げられ、果てしなく反響し合う、考現学をあらわにしました。社会に存在する力関係を次々に映し出す複雑な心理的光景は、ドキュメンタリーとフィクションの境界で巧みに揺れ動きながら、大阪の現代の姿を浮き彫りにします。

サラ・モリス
リップー [ポール・ルドルフ] タイクン・ミュージアムでの展示風景
2024年
家庭用グロス塗料、壁 6.74 × 20.95 m
© Sarah Morris Commissioned by Tai Kwun Contemporary

＊参考画像





サラ・モリスの主な作品 ＊掲載作品はいずれも本展に展示されます。

■「サイン・ペインティング」シリーズ

モリスは1990年代に、ニューヨークで本格的にアーティスト活動を始めました。初期の絵画シリーズである「サイン・ペインティング」の元となったのは、金物屋やホームセンターで販売されていた境界をめぐる注意喚起用の標識看板でした。

「BEWARE OF THE DOG（猛犬注意）」や「NO LOITERING（たむろ禁止）」といった命令的な文言の背景にあるのは、アメリカ合衆国憲法では、武器を保有し自ら所有物を守る権利も認められているという事実です。モリスは標識特有の極めて簡潔な表現を借りて、過度な自衛意識をも示唆しています。

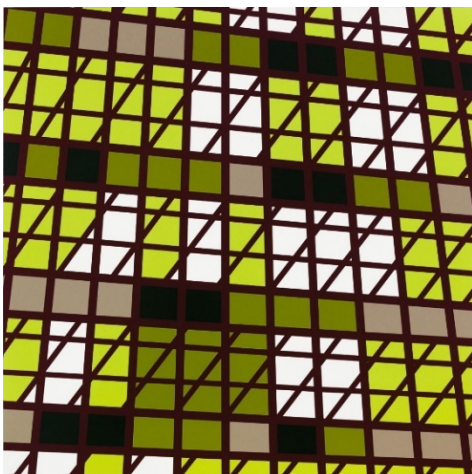


サラ・モリス《猛犬注意》1994年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 122 x 170 cm 作家蔵 © Sarah Morris Photo: Tom Powel Imaging

■「ミッドタウン」シリーズ

モリスは1990年代初頭、タイムズ・スクエアの近くの42丁目にあった安いスタジオを借りました。そこは、夜の街に潜む闇と、大手米国企業のビルに反射する光がせめぎ合う地区です。

「ミッドタウン」シリーズは、シーグラム・ビルディング（ミース・ファン・デル・ローエとフィリップ・ジョンソンが設計）など、マンハッタンのミッドタウンにある国際経済の中心を象徴する高層ビル群をテーマとしています。モリスはこの緊張感に満ちた地区を撮影して断片的な建築物のイメージを収集し、それをもとに絵画を制作しました。グリッドによる構成がミッドタウンのビルが持つ構造的特徴を捉え、つややかな色彩にはこれらのビルに対する心理的な解釈も表れています。



サラ・モリス《ミッドタウン - 蛍光灯の灯るシーグラム・ビルディング》1999年
家庭用グロス塗料、カンヴァス 214 x 214 cm 作家蔵
© Sarah Morris Photo: Stephen White

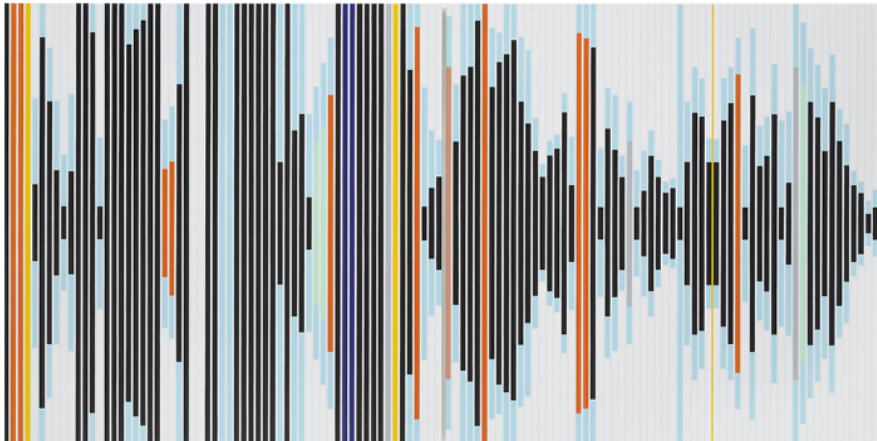


シーグラム・ビルディング
＊参考画像



■「サウンドグラフ」シリーズ

「サウンドグラフ」は、モリスの絵画と映像作品の交差点に位置づけられる絵画シリーズです。この絵画シリーズは、映像作品《有限のゲームと無限のゲーム》の撮影時にモリスが録音した音声をもとにしています。硬質な輪郭を持つ幾何学的形状がカンヴァス上で不規則に進行と退行を繰り返す構図は、膨張と収縮を繰り返しているようでもあり、コーディングを視覚化しているようにも見えます。



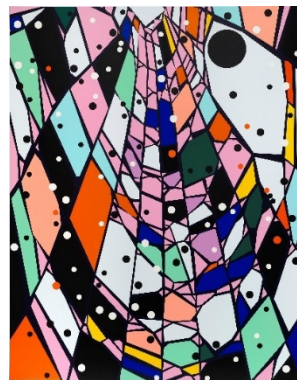
サラ・モリス 《社会は抽象的であり、文化は具体的である [サウンドグラフ]》2018年
家庭用グロス塗料、カンヴァス 214 x 428 cm
大阪中之島美術館 © Sarah Morris

■「スパイダーウェブ」シリーズ

コロナ禍でステイホームを余儀なくされたモリスは、自然物、すなわち蜘蛛の巣に着目しました。一見恣意的でありながらもシステムチックな蜘蛛の巣の形に魅了されたモリスは、これをモチーフに同シリーズを制作しました。拡張し続ける有機物である蜘蛛の巣は、都市の様相に重なります。



サラ・モリス 《ジレンマ [スパイダーウェブ]》2020年
家庭用グロス塗料、カンヴァス 214 x 271 cm White Cube
© Sarah Morris
Courtesy of the Artist and White Cube



サラ・モリス 《求愛行動 [スパイダーウェブ]》2021年
家庭用グロス塗料、カンヴァス 214 x 271 cm White Cube
© Sarah Morris
Courtesy of the Artist and White Cube
Photo: Tom Powel Imaging



■ 映像作品 《サクラ》

世界の主要都市を描いた絵画と並行して、モリスはその都市での体験をもとに映画も制作しています。本作は、2018年の桜の季節に彼女が来日した際に制作されました。本作ではクレパス®工場、文楽劇場、そして繁華街など様々な場所を捉えています。

《サクラ》は、日本で古くから商業、文化が栄えた都市の物語です。本作は大阪を、東京と対をなす都市あるいは「第二の首都」として捉え、絶えず変化し続けるその様を、日本の経済と文化の系譜を映す鏡として提示しています。モリスは都市空間を切り出すことで、過去の亡霊と未来の構想が現れ、掬い上げられ、果てしなく反響し合う、歴史的断面図を露わにしました。社会に存在する力関係を次々に映し出す複雑な心理的光景は、ドキュメンタリーとフィクションの境界で巧みに揺れ動きながら、大阪特有の時間の流れと混じり合います。



この映像作品の撮影に当館も協力した経緯もあり、当館と特別なつながりがある作品です。

サラ・モリス 《サクラ》 2018年
HD Digital 50分6秒 大阪中之島美術館
© Sarah Morris

作家プロフィール

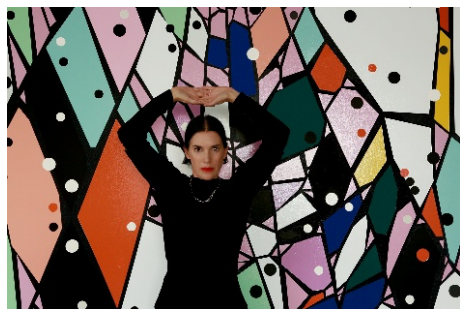


Photo: Anna Gaskell

サラ・モリス

1967年英国出身、現在はニューヨークを拠点に活動。図式的なグリッドを用いた幾何学的な抽象絵画で知られ、国際的に高い評価を受ける。1990年代以来、絵画や映像、サイト・スペシフィックな壁画、ドローイング、彫刻など多くの作品を制作してきた。その作品には、ネットワークや類型学、建築、都市への関心が反映されている。

モリスは自身の絵画を、自然発生的であり、自由な解釈、動きや変化を歓迎するものだとして捉えており、鑑賞者は自分たちがより大きなシステムの一部であることに気付かされる。様々な形状を使い視覚的構造物を生み出すモリスが扱うテーマは、多国籍企業や輸送ネットワーク、地図、GPS技術、月の満ち欠けの周期など多岐にわたる。絵画と並行して制作している映像作品は、多層的かつ断片的なナラティブを通した心理地理学的探求であり、変動し続ける都市の性質も探っている。モリスは自身と鑑賞者を映像の中に投げ、社会の階層性を映し出している。



主な個展

- 1999 「Sarah Morris」 オックスフォード近代美術館（イギリス）
- 2000 「Sarah Morris」 クンストハレ・チューリッヒ（スイス）
- 2001 「Correspondence」 ハンブルガー・バーンホフ現代美術館（ベルリン）
- 2005 「Endeavor」 パレ・ド・トーキョー（パリ）
- 2005 ストックホルム近代美術館（スウェーデン）
- 2008 「Black Beetle」 バイエラー財団美術館（スイス）
- 2009 「Gemini Dressage」 フランクフルト近代美術館（MMK）（ドイツ）
- 2014 「Strange Magic」 ルイ・ヴィトン財団（パリ）
- 2015 「Astros Hawk」 M ルーヴェン美術館（ベルギー）
- 2016 「Falls Never Breaks」 クンストハレ・ウィーン（ウィーン）
- 2018 「The Odysseus Factor」 UCCA（北京）
- 2023-2024 「All Systems Fail」 ダイヒトールハレン・ハンブルク、クレーフェルト美術館群、シュトゥットガルト美術館（いずれもドイツ）、パウル・クレー・センター（スイス、ベルン）
- 2024 「Who is Who」 タイクン・ミュージアム（香港）
- 2024 「ETC」 M+（ファサード）（香港）



展覧会概要

タイトル	サラ・モリス 取引権限
会期	2026年1月31日（土） - 4月5日（日） 休館日：月曜日、2月24日（火） ＊2月23日（月・祝）は開館
開場時間	10:00 - 17:00 （最終入場 16:30）
会場	大阪中之島美術館 5階展示室 [〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1]
主催	大阪中之島美術館
協賛	Kevin P. Mahoney Foundation、株式会社サクラクレパス
協力	リーガロイヤルホテル大阪 ヴィニエツト コレクション
助成	公益財団法人大林財団
後援	在大阪・神戸米国総領事
観覧料	一般 1800円（団体1600円） 高大生 1200円（団体1000円） 中学生以下 無料 当館メンバーシップ会員の無料鑑賞／会員割引 対象

【3セット券】 4500円（一般のみ）

＊1名で3回、もしくは3名でご利用いただけます。

＊販売期間：12月1日（月） 10:00 - 1月30日（金） 23:59

＊ローソンチケット（Lコード：52247）、ローソン各店舗で販売

【リピート割】 一般・高大生とも200円引き

＊会期中のみ販売、半券提示必須

＊大阪中之島美術館 2階チケットカウンターでのみ販売

＊税込み価格。

＊団体料金は20名以上。団体鑑賞をご希望される場合は事前に開館時間・料金・団体受付ページからお申込みください。

＊学校団体の場合はご来場の4週間前までに学校団体見学のご案内からお申込みください。

＊障がい者手帳（身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳）をお持ちの方（介護者1名を含む）は当日料金の半額（要証明）。ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお買い求めください。（事前予約不要）

＊一般以外の料金でご利用される方は証明できるものを当日ご提示ください。

＊本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。

＊災害などにより臨時で休館となる場合があります。

【チケットの主な販売場所】

大阪中之島美術館チケットサイト、ローソンチケット（Lコード：52247）、ローソン各店舗

お問合せ 06-4301-7285（大阪市総合コールセンター） 受付時間8:00 - 21:00（年中無休）

美術館公式サイト <https://nakka-art.jp>



[広報用画像]

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。下記申し込みフォームよりお申し込みください。




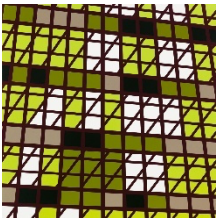
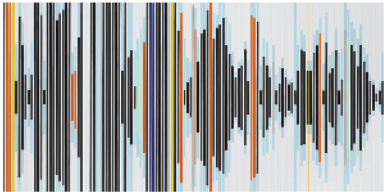




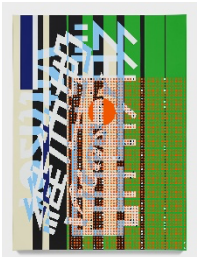

[広報用画像申込フォーム]

＊初回のみユーザー登録が必要です。

<https://service.press-camp.jp/pcamp/event/702>

■ 広報画像をご使用の際は、下記に記載の画像使用全般に関しての注意を必ずご確認ください。

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的とした報道に限らせて頂きます。ご使用可能期間は本展会期終了までです。
- ・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場名、所定の作品データ、所定のクレジットを必ずご掲載ください。
- ・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・本展終了後の掲載、画像の二次使用はできません。本展会期中であっても再放送や転載をされる場合はご連絡ください。
- ・展覧会基本情報と広報画像の確認のため、校正をお送りくださるようお願いいたします。
- ・インターネットでご紹介いただく場合はコピーガードをかけてご使用のうえ掲載URLをお知らせください。
- ・掲載誌・紙（ご紹介号）、同録DVDほかを1部お送りください。

(1) 	(2) 	(3) 
(4) 	(5) 	(6) 
(7) 	(8) 	(9) 
(10) 	(11) 	



No.	Copyrights
1	Photo: Anna Gaskell
2	サラ・モリス リッポー [ポール・ルドルフ] タイクン・ミュージアムでの展示風景 2024年 家庭用グロス塗料、壁 6.74 × 20.95 m © Sarah Morris Commissioned by Tai Kwun Contemporary
3	サラ・モリス《猛犬注意》1994年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 122 x 170 cm 個人蔵 © Sarah Morris Photo: Tom Powel Imaging
4	サラ・モリス《ミッドタウン - 蛍光灯の灯るシーグラム・ビルディング》1999年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 214 x 214 cm 個人蔵 © Sarah Morris Photo: Stephen White
5	サラ・モリス《社会は抽象的であり、文化は具体的である [サウンドグラフ]》2018年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 214 x 428 cm 大阪中之島美術館 © Sarah Morris
6	サラ・モリス《求愛行動 [スパイダーウェブ]》2021年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 214 x 271 cm White Cube © Sarah Morris Courtesy of the Artist and White Cube Photo: Tom Powel Imaging
7	サラ・モリス《サクラ》2018年 HD Digital 50分6秒 大阪中之島美術館 © Sarah Morris
8	サラ・モリス《SM 反転された輪郭 [イニシャル]》2011年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 214 x 214 cm 個人蔵 © Sarah Morris Photo: Christopher Burke
9	サラ・モリス《SRHMRRS3》2001年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 256.5 x 198cm 個人蔵 © Sarah Morris Photo: Stephen White
10	サラ・モリス《ビタソイ [香港]》2024年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 207 x 152.5cm White Cube © Sarah Morris Photo: Tom Powel Imaging
11	サラ・モリス《いじわるナース》1997年 家庭用グロス塗料、カンヴァス 182.8 x 233.68cm 個人蔵 © Sarah Morris Photo: Stephen White